

平成 28 年度新入生アンケート 調査結果について（報告）

大阪大谷大学では、全学部の新入生を対象に毎年アンケート調査を実施しています。一人ひとりにあった学習支援をするために入学時点の基礎データを得ること及び大学教育・大学運営の充実・改善のための基礎資料とすることを目的として実施するものです。

以下、調査結果（全学）の概要を報告します。

調査期間：平成 28 年 5 月 6 日～6 月 6 日 対 象：全学部新入生（1 回生）

調査方法：オンライン調査 回収率：96.4%

注）本年度から moodle のアンケート機能を利用して実施し、調査期間は従来の入学直後から入学後 1～2 か月経過した時点での設定としました。

問）大阪大谷大学に入学して満足していますか

（全学）

「満足している」（24.2%）、「やや満足している」（34.2%）、「普通」（31.4%）

「あまり満足していない」（6.0%）、「満足していない」（2.7%）

「わからない」（1.5%）

- \* 「満足している」「やや満足している」を合わせた肯定的回答は 58.4%（昨年度 41.4%）で昨年度よりかなり高かった。「あまり満足していない」「満足していない」の否定的回答は少数で計 8.7%（昨年度 6.5%）であった。一方、「普通」「わからない」は計 32.9%（昨年度 50.9%）で昨年度よりかなり低くなっていた。大学生活に慣れ始めた時点での調査であったためと推察され、入学後約 1 カ月間の変化と考えられる。

問）本学を受験校に選んだ理由は何ですか（複数回答可）

（全学）

- ・上位 7 項目は以下のとおり。

「学びたい学科・専攻がある」（67.6%）、「資格・免許が取得できる」（50.2%）

「他の大学に入学できなかった」（28.8%）、「通学に便利」（20.4%）、「人（先生・

家族・先輩など）から勧められて」（18.7%）、「入学の難易度が自分にあう」（18.0%）、

「資格試験や教員採用試験の対策指導が充実している」（14.2%）

- \* 「学びたい学科・専攻がある」「資格・免許が取得できる」の上位 2 項目は昨年同様 50%以上の高い数字を示した。明確な目的意識をもって入学する人が多いことがう

かがわれる。

問) 学生生活の中で特に力を入れて取り組みたいことは何ですか (複数回答可)

(全学)

・上位 7 項目は以下のとおり。

「資格・免許の取得」(76.8%)、「教員採用試験・公務員試験・国家資格試験などに合格するための勉強」(56.5%)、「部活・サークル活動」(43.6%)、「学科の専門分野の知識・理解を深める」(41.9%)、「趣味やアルバイト」(36.8%)、「有意義な人間関係を築く」(33.8%)、「幅広い教養・ものの見方を身につける」(32.4%)

\*50%以上を示した項目は昨年と同じ 2 項目であった。入学時から学びたいことを明確にもち、教員免許や国家資格などへの取り組みを熱心に考えている新入生が多いことがわかる。

問) 今後、学生生活を送るうえで不安がありますか (複数回答可)

(全学)

・上位 7 項目は以下のとおり。

「授業 (勉強)」(63.7%)、「資格・免許取得」(51.2%)、「就職」(45.8%)、「教員・公務員試験対策」(37.4%)、「英語 (外国語)」(26.9%)、「学費」(22.9%)、「パソコンの活用」(22.4%)

\*「授業 (勉強)」と「資格・免許取得」への不安が昨年同様多くみられた一方、入学直後に実施した昨年度とはいくつかの項目で差が表れた。「友人関係」や「新しい生活環境への適応への不安」は昨年度 20%を超えていたが、本年度は減少 (ともに 13.1%) し、「就職」への不安は昨年度 (28.5%) より増加していた。実際に授業や生活を体験するなかで、不安が減少し適応しつつある様子とともに、将来や社会状況にも目を向け始めていることがうかがわれる。

総括および大学の対応

今回の調査においても、入学時から学びたいことを明確にもち、免許や資格取得への取り組みを熱心に考えている新入生が多いことがうかがわれました。一方、これから始まる「授業」や「資格・免許取得」、「就職」、「英語 (外国語)」などに期待と不安が入りまじる様子も推察されました。

本学では、教職教育センターでの教職支援や就職課の多様な就職支援、初年次からの少人数教育や「オフィスアワー」などの学習支援、臨床心理士等のスタッフが常駐する学生相談室の整備など 1 回生から始まる多様なサポートを提供しています。